

皮膚科のトリビア

199

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第44回日本小児皮膚科学会学術大会から

令和3年1月10日

PCRによる小児急性発疹症の原因検索

小児に生じる急性発疹症の原因検索として、multiplex real time PCRを試みた。咽頭拭い液を検体として、1検体から22種類のウイルスおよび細菌を検出できる、呼吸器系疾患のパネル[RespiFinder® 2Smart(輸入元 Filgen, Inc.)]を用いて検索した。全体の42%から特定のウイルスが確認でき、72%で確定診断に有用だった。

一言コメント

「そもそも、よく知られたウイルス性発疹症以外に、呼吸器系に限らず、どのウイルスがどういった発疹をきたすかの整理ができていないことが問題だと思う。原因不明の発疹症の克服は、開業医としても大いに期待したいところだ。」

●日本皮膚科学会第894回東京地方会から

令和3年1月16日

Reiter症候群はいまは反応性関節炎の範疇に含まれる

歯科的な処置の1週間後から、弛張熱と四肢の発赤、腫脹が生じた。蜂窩織炎が疑われたが、血液培養からB群溶連菌が検出され、菌血症と感染性心内膜炎と診断された。四肢の関節腫脹は非対称的で、熱感を伴っていて、反応性関節炎と診断された。反応性関節炎は、以前はReiter症候群と呼ばれていた

が、現在では微生物感染が先行し、それによって惹起された免疫反応による遷延性の末梢関節炎および脊椎関節炎と定義されている。

一言コメント

「Reiter症候群は膿疱性乾癬に似た皮膚病変とともに、関節炎、尿道炎、結膜炎を3主徴とする疾患、と認識していたが、いまやその病名は使われることが少なくなったと知った。」

●日本皮膚科学会第894回東京地方会から

令和3年1月16日

薬剤性血管炎の診断をどのように行うか

高齢の関節リウマチ患者に、NSAIDに加えてトシリズマブが投与された。5日目に両側下肢に丘疹性紫斑と水疱が出現。リウマチ性血管炎か薬剤性血管炎の鑑別が問題となった。薬剤性血管炎はANCAが関与するものと、免疫複合体が関与するものに分けられる。そのほかに薬剤による血管内皮細胞傷害や薬剤特異的T細胞の活性化、炎症性サイトカイン産生亢進などが関与するとされ、原因の検索が容易ではない。

一言コメント

「プロピルチオウラシルやミノサイクリンが有名だが、最終的にそうだ、といいきれる症例に遭遇したことがない。」

●皮膚感染症くらぶ勉強会

令和3年1月31日

endonyx onychomycosisとは

白癬菌が爪床近くの下層から侵入し全層に寄生する病型で、爪下の過角化や爪甲剥離は生じない。爪上皮には菌糸はなく炎症もない。頻度は低い。

一言コメント

「全体が白くて厚いが、表在性ではない爪白癬。ときどきみることがあるような気がする。治療は抗真菌薬の内服が必要だろう。」

●アトピー性皮膚炎治療研究会第26回シンポジウムから

令和3年2月7日

2歳未満の乳児アトピー性皮膚炎(AD)に対するタクロリムス軟膏0.03%の適応を目指して

乳児のADでは顔面に比較的重症な湿疹病変を生じることが多い。しかしステロイド外用薬の局所副作用を懸念し、不十分な治療しか行われず遷延化する例が少なくない。顔面に対する継続治療に適した薬剤はタクロリムス軟膏であるが、添付文書上2歳未満の乳児に対する使用は禁忌とされている。欧米からは安全性を確認し使用を勧める複数の報告がある。本邦においても2歳未満のAD治療薬としてその必要性を確認するため、検討を行った。128例の乳児ADに対し寛解維持療法としてタクロリムス軟膏0.03%を使用した。感染症の併発は毛包虫症1例のみで、全例において寛解維持がなされ、漸次終了が可能であった。

一言コメント

「製薬企業にとって、添付文書の書き換えをするのがたいへんな作業であると聞いている。ただ、乳児ADに有効でかつ安全な外用薬がないのも事実で、なんとか頑張っただけだと思う。」

●アトピー性皮膚炎治療研究会第26回シンポジウムから

令和3年2月7日

tapinarofによるアトピー性皮膚炎(AD)のバリア修復

人体に有益な反応をもたらす芳香族炭化水素受容体(AHR)のmodulator(TAMA)の1つであるTapinarofの外用薬が開発され、海外の臨床試験でADに対する治療効果が明らかとなっている。TAMAはフィラグリンの発現を増加させ、ADにおける皮膚バリア機能障害を改善する。さらにデュピルマブでIL-24の発現を低下させ、JAK阻害薬でIL-24によるSTAT活性化経路を遮断するとTAMAによるフィラグリンの発現が増強する。新しい作用機序なので、ADの治療薬として期待される。

一言コメント

「ちょっとむずかしいが、米国では乾癬に対しても試験が進行中と聞く。PDE4阻害薬の内服が乾癬で、外用がアトピー性皮膚炎。乾癬とアトピー性皮膚炎が、治療薬の適応ではくっついたり離れたりで、どうも混乱してしまう。」

●横浜市民病院病理カンファレンスから

令和3年2月9日

DuperratとNanta

Duperrat母斑は、顔面に生じることの多い母斑細胞母斑で、母斑の下床に嚢腫を伴うものを指す。毛包に沿って母斑細胞が増殖するため、毛孔がふさがれ嚢腫となる。嚢腫はしばしば炎症を生じる。Nanta母斑は下顎など、下床が硬いところでおこることの多い母斑で、Duperrat母斑の下床の嚢腫が破裂し、慢性肉芽腫性の炎症が遷延化することによって、二次的に骨化を生じたものを指す。

一言コメント

「ほくろが腫れてきた、という訴えは、Duperrat母斑であることが多いと知った。母斑細胞母斑全検体の1%にみられるという。ときどき遭遇することがある。」